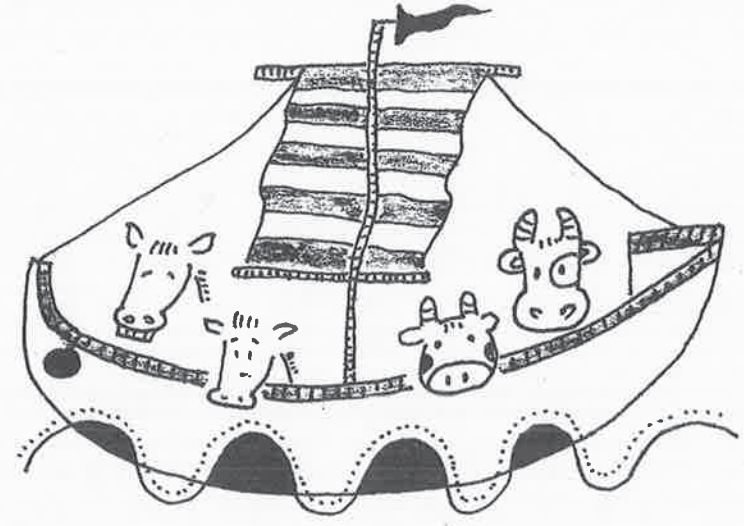


83 武士と肥やし

昔、百姓と士族とはね、もう、百姓は、野菜ぐらいにしか見ていなかった。斬って捨てても。

それでね、武士がね、お供も連れてよ、坂の下から首里であつたところを通つて来られた。首里城。何と云うか向こうは。識名、識名であつたとこ通つて。そこで、武士がよ、お供連れて上がつて来よつた。そして、百姓はよ、百姓はタンゴによ、桶。昔は肥やしを入れて、畑に担いで行きよつた。それで、この坂の上で武士が来たから、タンゴを置いてね、お辞儀するといつて、もう落ちんとして、下から転んだから、向こう、タンゴを置いてね、こんなにしてうつむいておつたらよ、このタンゴからね、肥やしがこぼれて、この上がってくる武士にね、汚した。そうしたから、その後はね、もう肥やし担いでいる時はよ、坂びらではよ、武士にはお辞儀をしないでね、そのまゝ行くように許された。って。



字伊原 玉城ハル